勿凝学問 290

日医会長選の中での候補者たちの一言、興味深かったのでメモ

2010 年 3 月 4 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

m3.com の「日本医師会会長・唐沢祥人氏に聞く」(10 年 3 月 5 日)を読んでいたら、次のやりとりがあった。

——「日本の政治の枠組みが変わらなかった」というのは、予算決定のプロセスのことでしょうか。財務省主導は変わらないということですか。

財務省を“悪者”にするのは簡単ですが、国民の皆さんが、「いいですよ、これくらい税を負担します」といった気持ちになれば、恐らく財務省も財源を投入してくれるかと。国民の皆さんによく説明しなければならない。ですから報道のあり方が大事。

——財務省は与えられた範囲でやるしかない。

そうだと思うのです。「医療界を苦しめる」といった悪意を持つ人は皆無とは限りませが、皆さん、真面目に考えてやっているのだと思うのです。国がもたなくなったら、国民にものすごいプレッシャーがかかるでしょう。

そうしたことは承知しつつも、医療には財源を投入してもらわないと困る。何とか財源を調達してほしいという思いでおります。

——「枠組み」というのは、国民の理解度に関係してくるのでしょうか。

これは本当に変えなくてはいけないでしょう。

ふ～ん。

では、他の候補者は？と思って、m3.com のいろいろな文章を「財源」あるいは「財務省」で検索してみると。「森・京都府医師会長、2 月 1 日記者会見の「一問一答」」(10 年 2 月 2 日)でヒット。

質問：茨城の原中氏と森氏は、「反唐沢」「反現執行部」という主張では一致してい

る。外から見て、お二人の違いが分かりにくい。なぜ原中氏ではダメなのか。どう差別化していくのか。なだめなのか。

森氏：先ほども言ったが、一番の違いは、「民主党とのパイプ」を強く主張した点。（先の衆議院議員選挙では）茨城県では成果を挙げた。その力はすごいと思う。しかし、民主党を支持していくと、今度政権が変わったり、あるいは政権から強く働きかけられた時にどうなるのか。今の執行部は、自民党をあれだけ支持してきたのに、医療政策が我々にとって非常に厳しいものになった時に十分な反対の声を上げにくかった。上げられなかったのが事実だろう。

今回、民主党政権でも、**財務省**主導が続いており、**財源**がないという一点で医療費の抑制を図ってくる。マニフェストが実現できないとなった時に、どれだけの是々非々で行くことができるのか。したがって、最初から是々非々で、我々は後ろに国民を背負ってやっていく。「青臭い」と言われれば、青臭いが、しかし、そうした部分がなければ、医師会は皆に信頼されない。国民の後押しはないと思っている。この点をしっかりと踏まえていけば、おのずと立場が違うことは理解いただけるだろう。

原中氏に関しては、まだ、検索ヒットみつからず。ちなみに、森氏の言う、原中氏が「民主党とのパイプ」を強く主張という点については、m3.com の「日医会長選への出馬を表明、原中・茨城県医師会長」(09 年 10 月 20 日)の中に次の文章があった。

幸い私が民主党議員の立候補者を推薦して、全国的な流れを作ったことを理解していただきまして、私たちの意見が民主党に非常によく受け入れていただいていることを考えますと、やはり私としては医師のため、国民のために日本医師会の会長になって訴えなければならない、そんな責任を感じたのでございます。

ところで、僕は、2007 年 10 月 25 日に茨城県医師会に呼ばれて、同年 6 月に出した『医療政策は選挙で変える――再分配政策の政治経済学Ⅳ』の「はじめに」を資料として講演をする。講演を終え、僕が帰った直後に、茨城県医師会が次期衆院選に向けて民主党支持に回る決議をしたと、後に聞く。